

第3章	日本の自然環境③	学習日 月 日	名前
-----	----------	------------	----

教科書 P60～ 要点ノート P～36

(3)日本の気候

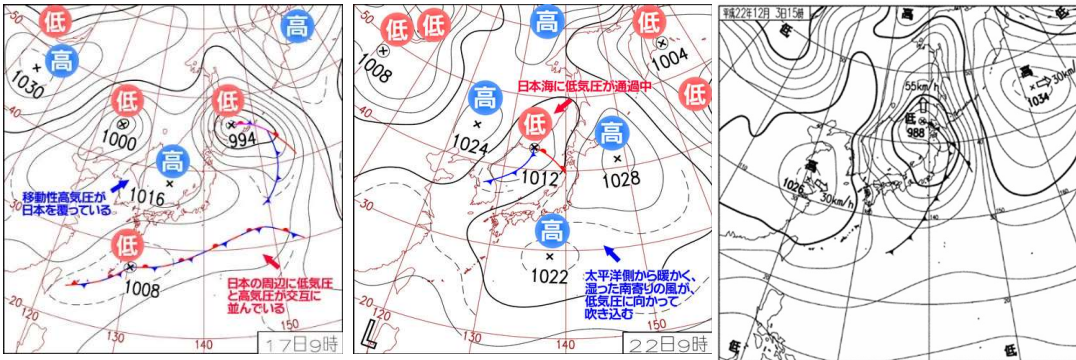
日本列島はほとんどが Cfa 気候、北海道など北東部は Df 気候。

【特色】

- ・ 島嶼であるため、全般に気温変化が穏やかで降水量が多い海洋性気候
- ・ 国土が南北に長いので、南北で気温の差がある
- ・ 列島の中央部を山地が縦断しているため、太平洋側と日本海側で気候が違う
- ・ 中緯度の大陸東岸に位置するため季節風=(1)の影響が大きい
- ・ 四季が明瞭である

【春】

(2) から切り離された移動性高気圧と、(3) が交互にやってきて寒暖が繰り返される「三寒四温」という状態となる。日本海側では(4) による雪崩の発生。気温が上昇していくときに急速に温帯低気圧が発達する爆弾低気圧も発生する。



この天気図は、日本列島が移動性高気圧に覆われている。その前後には低気圧がある(低気圧と高気圧が交互に並んでいる)。これが春の天気図の特色。

春一番とはその年の立春以降に最初に気温の上昇を起す強い南寄りの風のこと。太平洋側に高気圧があり、日本海を通過する低気圧に向かって風が吹き込んでいく。これも春なので高気圧と低気圧が交互に並んでいる。

爆弾低気圧の雨温図。爆弾低気圧は正式な呼び方ではない。日本列島以上に発達した低気圧があり、台風のような被害をもたらす。これも高気圧と低気圧が交互に並んでいる。

【夏】

6月21日ごろが(5))。太陽が北回帰線(北緯 23.4°)上を通る。日本では昼が一番長くなる。

日本列島の北側に寒冷で多湿な(6))、南側に温暖で多湿な(7))が発達。両者がぶつかる所に(8) 梅雨前線)ができ、日本列島を覆う。北海道は梅雨前線の影響をほとんど受けない。

その後(7))が強くなると(8))は押し出され、太平洋高気圧が日本列島を覆い盛夏となる。そして、台風シーズンを迎える。台風は熱帯低気圧で風速 17.2m/sのものをいう。

【秋】

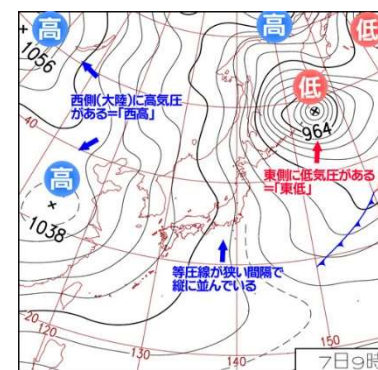
9月21日ごろに(9))を迎える。太陽が赤道を通過し、その後は南回帰線(南緯 23.4°)に太陽が向かっていく。昼が短くなり、気温は徐々に下がっていく。

(7))の力が弱くなり、(6))が日本列島を覆うようになってくる。両者の間には(10))ができ、「秋の長雨」「秋霖」と呼ばれる雨が降る。春と同様に定期的に天候が変化する。

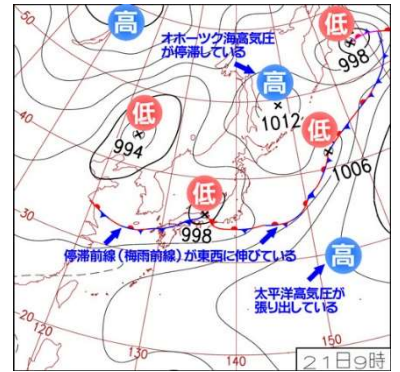
【冬】

ユーラシア大陸に(11))が発達。相対的に太平洋側に低気圧(ニアリュージャン低気圧)が発達。冬季特有の西高東低の気圧配置になり、北西から南東方向に筋状の雨雲が発達する。

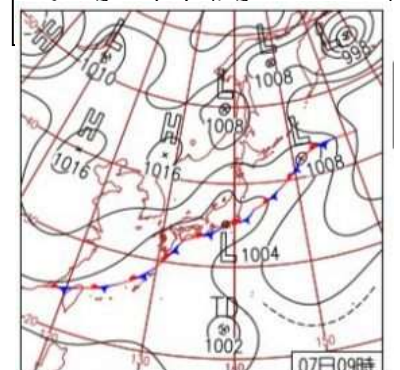
冬季モンスーンは大陸から吹き出す乾いた風であるが、日本海を流れる対馬海流で水蒸気を得て、さらに日本列島の脊梁山脈によって上昇気流となる。こうして日本海側に(12))がみられる。したがって日本海側では、(13))=豪雪でも人が通れるようにした幸代家の屋根や、(14))=屋根への積雪を防ぐための急な屋根の家がみられる。



西に高気圧、東に低気圧があり、等高線は縦に狭い感覚で並び縦縞模様になることが多い。日本海側は雪、太平洋側は乾燥した晴天になる日が多くなる。NHKの天気予報でよく登場する「冬将軍」とはシベリア高気圧のこと。



非常に特徴的な天気図。停滞前線(梅雨前線)が東西に延びていて、南側に高気圧が張り出している。北海道の北部に高気圧が停滞し



秋雨前線。日本の北側に高気圧が発達し、日本列島を秋雨前線が覆っている。



合掌造
屋根裏では養蚕が行われている。